

『通り猫アルフィーとジョージ』 レイチェル・ウェルズ=著

### 今度は2匹で奇跡を起こす 新たなコンビが猫旋風を巻き起こす!?

ご好評いただいている『通り猫アルフィー』シリーズも、おかげさまで**第3弾**。本作では新たなキャラクター、**仔猫**のジョージが登場します！

ジョージは生後3カ月の茶トラ猫。最初は「**毛のかたまりだ...**」と、初めて見る仔猫に狼狽えていたアルフィーも、いつしか親子同然の名コンビに。そんな中、人間の家族たちはまた新たな問題をそれぞれに抱え、しかも**今度は近所で猫たちが次々と行方不明**になる事件が勃発。

果たしてNewコンビは、**皆の笑顔と幸せを取り戻せるのか!?**

1話2話同様に  
英国でもAmazonレビュー平均☆4.8  
と高評価。猫好きさん必読の1冊です！  
(担当：まつ)



『ブラック・ウィドウ 上・下』 ダニエル・シルヴァ=著

### ココがすごいよ ダニエル・シルヴァ!

👍 シリーズ16作品すべてがニューヨーク・タイムズのベストセラーリストにランクイン!

〈ガブリエル・アロン・シリーズ〉の16作目の本書は2016年7月の刊行直後、ニューヨーク・タイムズのベストセラーで初登場1位を飾っている。主人公のガブリエルはイスラエルの諜報機関〈オフィス〉のエージェント。妻の顔は世界屈指の美術修復師、妻の顔は伝説的スパイにして暗殺者という痺れるキャラクターだ。毎回異なる国、異なる事件、異なるテーマが描かれるため、シリーズものといっても一話完結ドラマのように楽しめる(というか、海外ドラマ『HOMELAND』『24』シーズン分くらいの濃度が1冊に凝縮されている)。シリーズ最高傑作といえる本作からガブリエル・アロンの世界を知るのもお薦めだ。ちなみに1~4作目は邦訳も出ている(論創社刊)。



👍 混迷を極める欧米、中東情勢のパワーバランスまるわかり!



ダニエル・シルヴァは、元UPIの中東特派員、CNNのエグゼクティブプロデューサーだけあり、国際情勢への知識は筋金入り。ロシアとシリアの蜜月(14作目『亡者のゲーム』)、ダイヤモンドを髻髪とさせるプリンセス暗殺(15作目『英国のスパイ』)など、実際の事件や歴史を絡めたストーリーはどこまでが創作なのかわからなくなるほどリアル。



ニッチな国の情報機関や各国エージェントのパワーバランスなど、そこそこ仕込まれた小ネタにも興奮を覚える。

👍 美術ミステリーとしても魅力的!

主人公ガブリエルが世界的な美術修復師ということもあり、さまざまな名画が作品のキーアイテムとして登場。カラヴァッジョやゴッホといった巨匠たちの幻の絵画に隠されたサイドストーリーが怒濤のアクションや細獲りのスパイゲームを彩る、複層的なプロットも必読。(担当：O)